

1 (2) 男性の概況

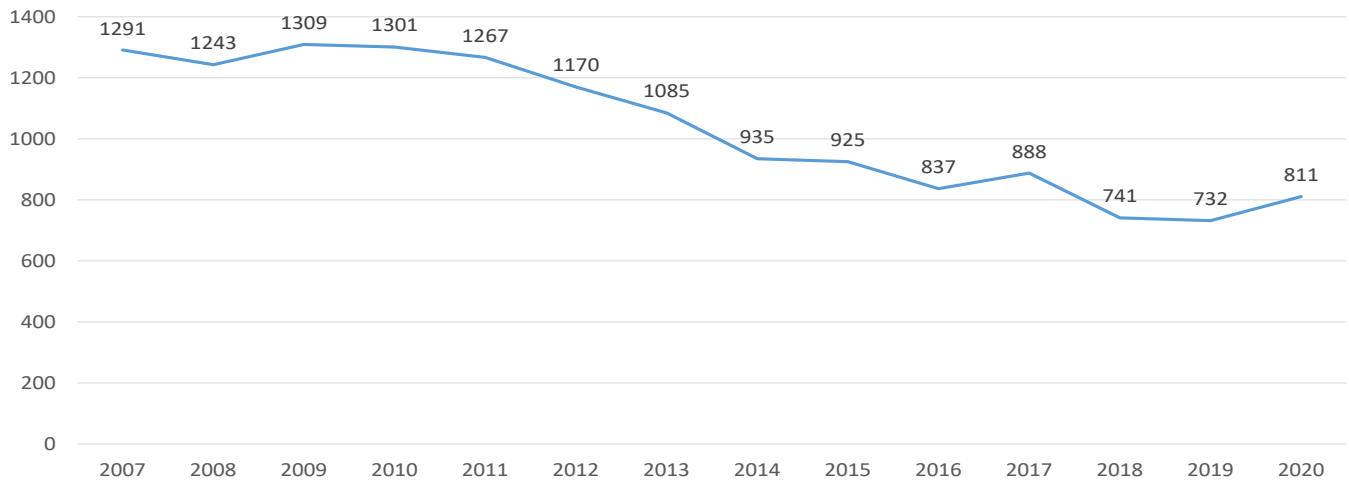
(2) 男性の概況

図表12-01

男性自殺者数の推移(2007年~2020年)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



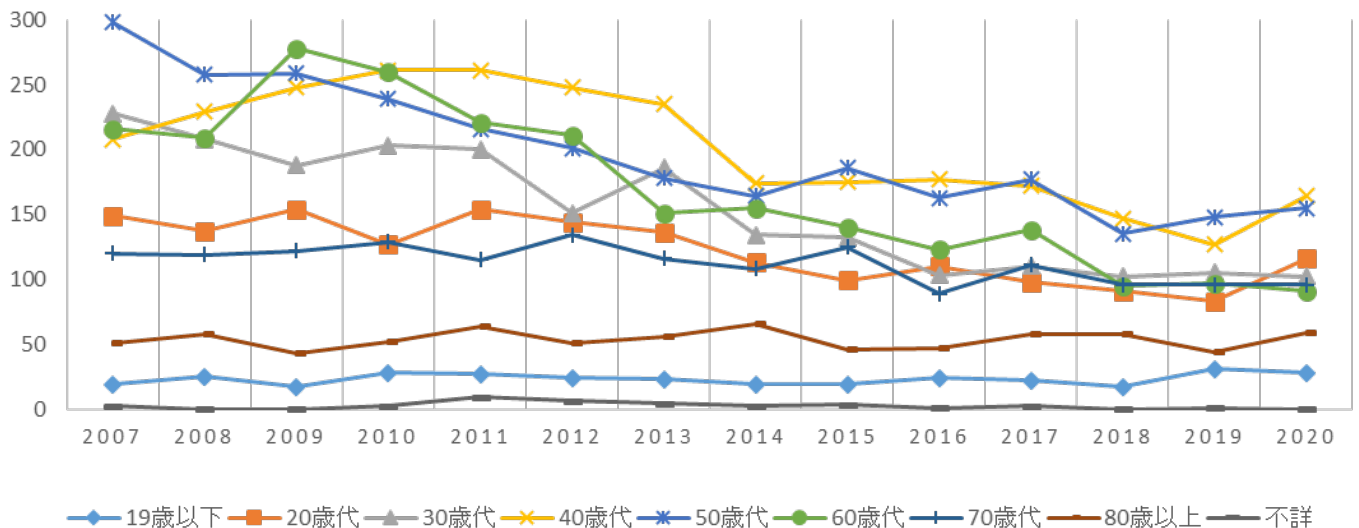
- 男性の自殺者は、2007年以降、2009年が最多で1,309人、2019年が最少で732人であり、この間、577人と、大きく減少したが、2020年は前年比で79人(10.8%)増加し、811人となった。

図表12-02

年齢階級別男性自殺者数の推移(2007年~2020年)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)年齢不詳は除外している。

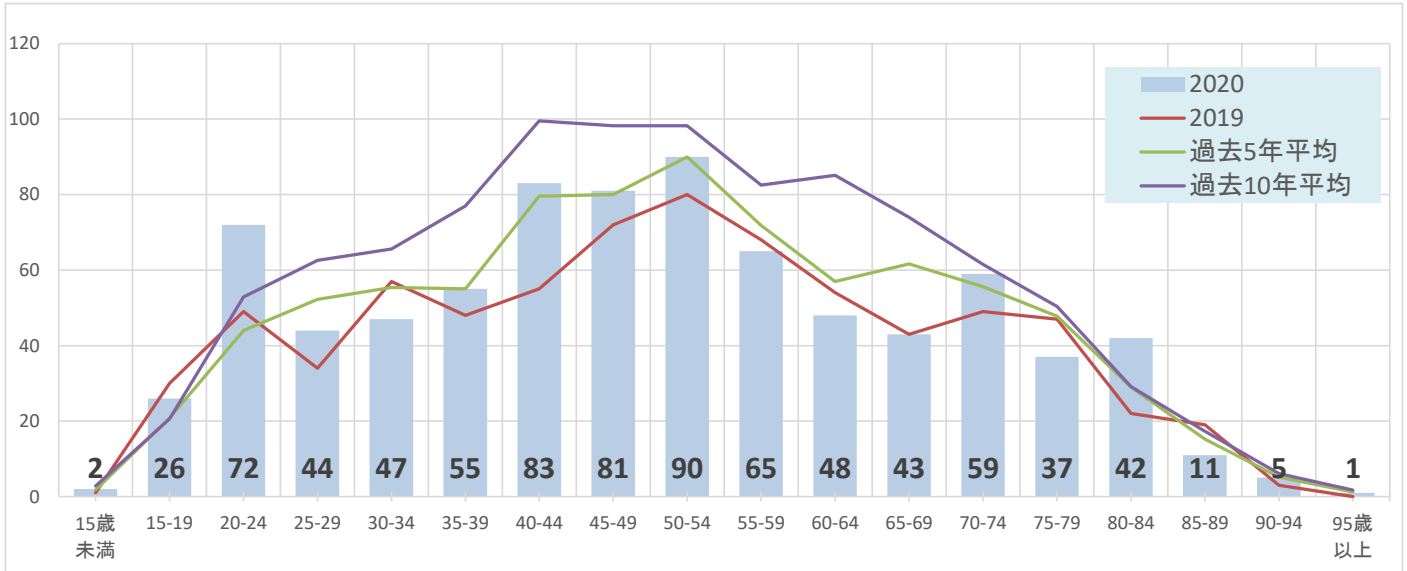
- 年齢階級別自殺者数の推移をみると、2007年以降、「20歳代~70歳代」はおおむね減少傾向、「19歳以下」と「80歳以上」はほぼ横ばいで推移してきたが、2020年は、「20歳代」、「40歳代」、「50歳代」、「80歳以上」で前年より増加した。
- 前年比で特に増加が大きかったのは、「40歳代」と「20歳代」であった。

図表12-03

年齢階級別男性自殺者数の増減比較(2020年と過去5年・10年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



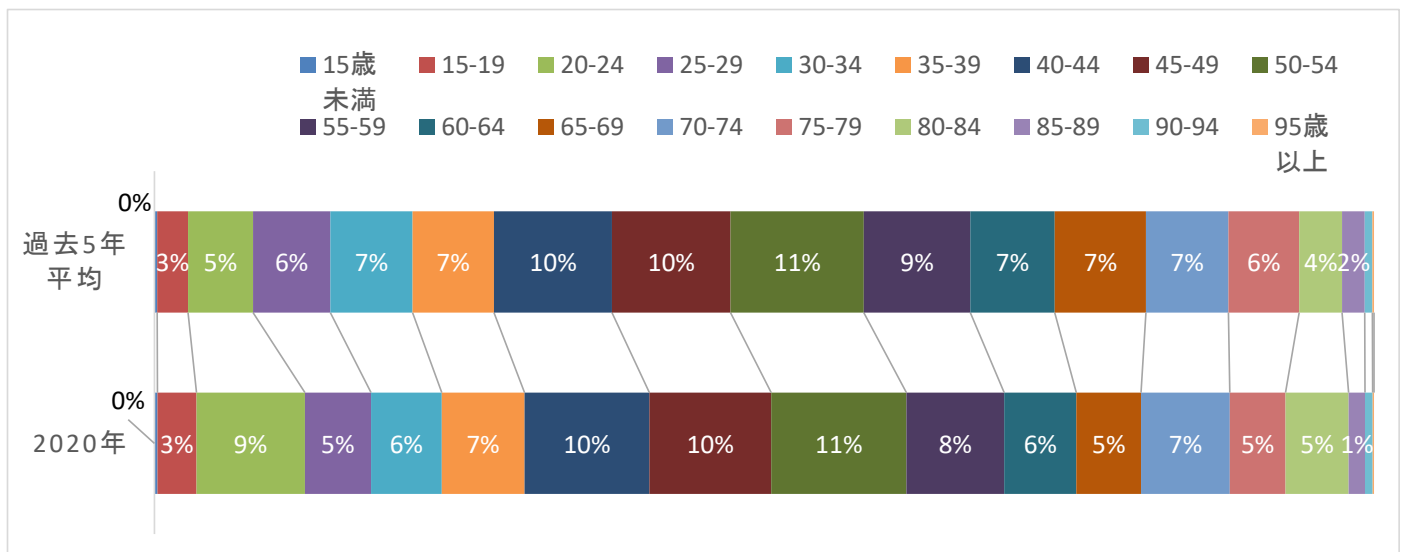
注)年齢不詳は除外している。

- 2020年の男性の自殺者数について、年齢階級別で見ると、「50歳代前半」が最も多く、次いで、「40歳代前半」、「40歳代後半」、「20歳代前半」の順に多くなっている。

図表12-04

年齢階級別男性自殺者数の構成比(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)年齢不詳は除外している。

- 男性自殺者数の年齢階級別構成比を過去5年平均と比較すると、「20～24歳」が4ポイント増と、最も上昇した。

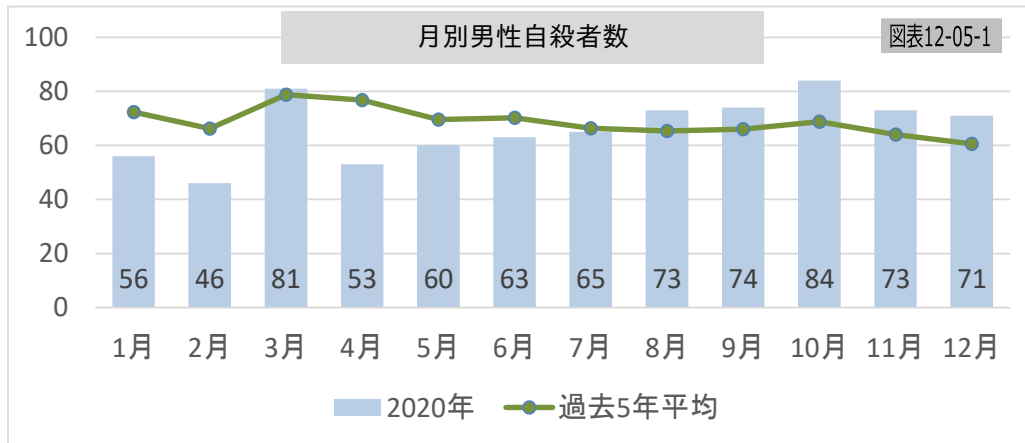
1 (2) 男性の概況

図表12-05

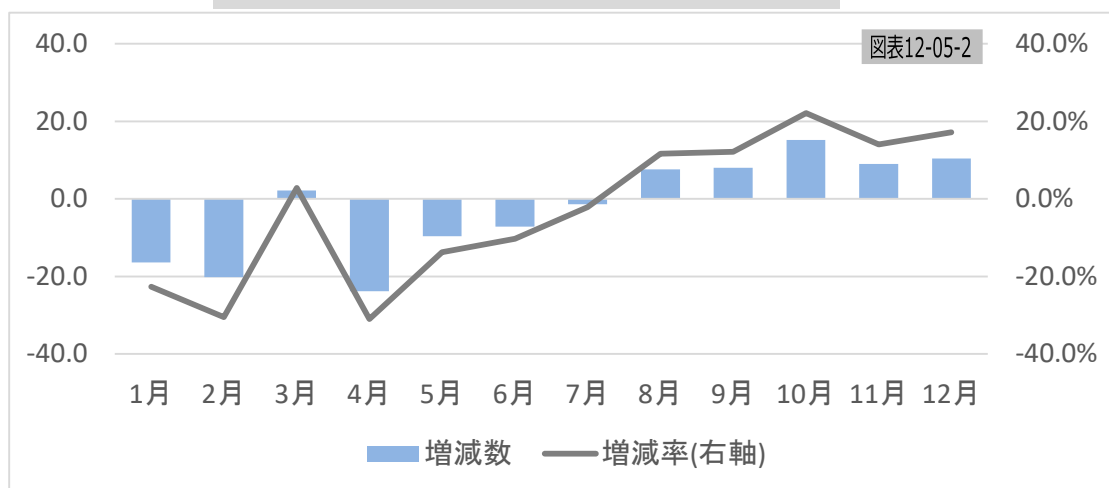
月別男性自殺者数の比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



月別男性自殺者数と過去5年平均との増減比較



図表12-05-3

| (男性) | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 年間 |
|--------|--------|--------|------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 過去5年平均 | 72.4 | 66.2 | 78.8 | 76.8 | 69.6 | 70.2 | 66.4 | 65.4 | 66.0 | 68.8 | 64.0 | 60.6 | 825.2 |
| 2020年 | 56 | 46 | 81 | 53 | 60 | 63 | 65 | 73 | 74 | 84 | 73 | 71 | 799 |
| 増減数 | -16.4 | -20.2 | 2.2 | -23.8 | -9.6 | -7.2 | -1.4 | 7.6 | 8.0 | 15.2 | 9.0 | 10.4 | -26.2 |
| 増減率 | -22.7% | -30.5% | 2.8% | -31.0% | -13.8% | -10.3% | -2.1% | 11.6% | 12.1% | 22.1% | 14.1% | 17.2% | -3.2% |

注)自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

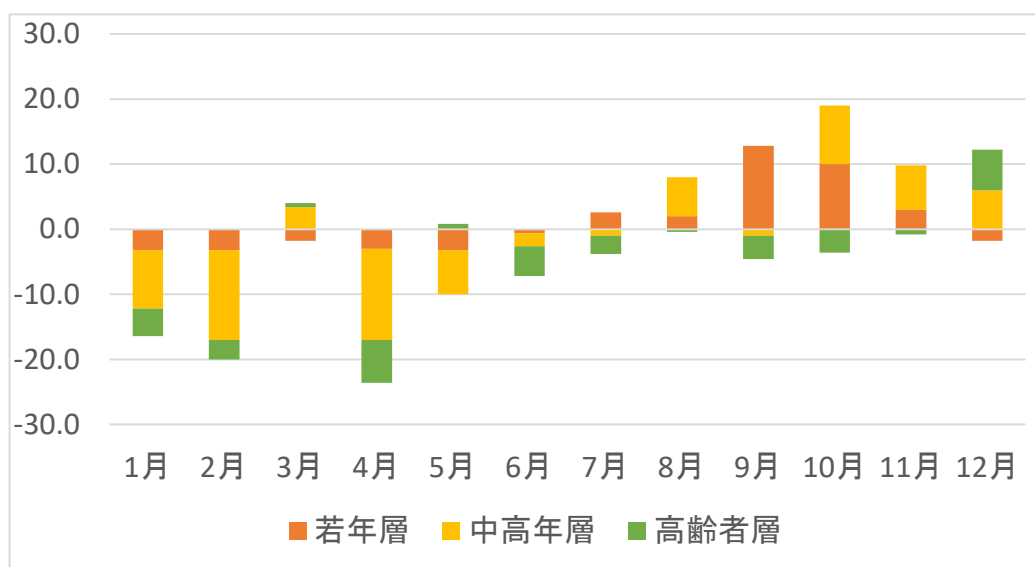
- 2020年の男性の月別自殺者数の推移をみると、「10月」が最も多く、「2月」が最も少なくなっている(図表12-05-1)。
- 過去5年平均と比較すると、「3月」を除き「7月」までは下回ったが、「8月」以降は継続して上回った。年間では、上半期の減少が下半期の増加を上回ったため、26.2人の減少となった(図表12-05-2,図表12-05-3)。
- また、増加数が最も多かったのは「10月」で、15.2人(22.1%)の増であり、次いで、「12月」の10.4人(17.2%)の増であった(図表12-05-2,図表12-05-3)。

図表12-06

年齢階級別男性自殺者数の月別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



| (男性) | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 年間 |
|------|--------|-------|-------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 若年層 | 40歳未満 | -3.2 | -3.2 | -1.8 | -3.0 | -3.2 | -0.6 | 2.6 | 2.0 | 12.8 | 10.0 | 3.0 | -1.8 | 13.6 |
| 中高年層 | 40~64歳 | -9.0 | -13.8 | 3.4 | -14.0 | -6.8 | -2.0 | -1.0 | 6.0 | -1.0 | 9.0 | 6.8 | 6.0 | -16.4 |
| 高齢者層 | 65歳以上 | -4.2 | -3.0 | 0.6 | -6.6 | 0.8 | -4.6 | -2.8 | -0.4 | -3.6 | -3.6 | -0.8 | 6.2 | -22.0 |
| 合計 | | -16.4 | -20.0 | 2.2 | -23.6 | -9.2 | -7.2 | -1.2 | 7.6 | 8.2 | 15.4 | 9.0 | 10.4 | -24.8 |

注)自殺月で集計している。年齢不詳、自殺月不詳は除外している。

- 2020年の男性の自殺者数を年齢階級別にみると、「8月」以降は継続して過去5年平均を上回るようになったが、これは主に「若年層」と「中高年層」の増加の影響が大きい。
- 「若年層」は、過去5年平均と比べ、「7月」から増加に転じ、「9月」、「10月」と大きく上回った。年間の合計としても、13.6人増加している。
- 「中高年層」は、過去5年平均と比べ、「7月」までは「3月」を除き下回ったが、「8月」以降は「9月」を除き増加し、特に、「10月」が最も増加した。一方で、年間の合計としては、上半期の減少の影響を受け、16.4人減少している。
- 「高齢者層」は、過去5年平均と比較してほとんど下回ったが、「12月」が各年代層の中で、最も増加した。

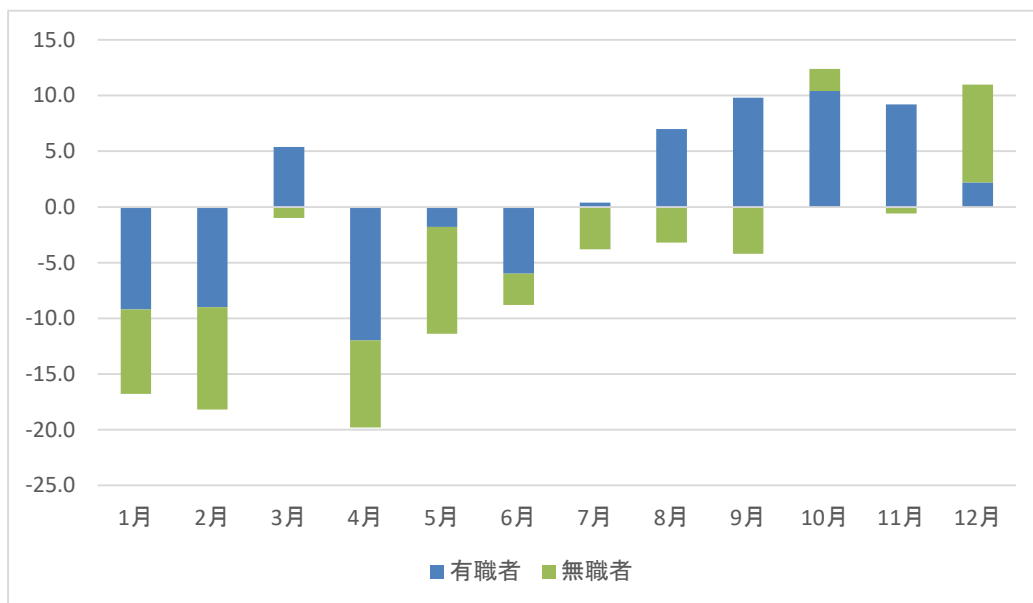
1 (2) 男性の概況

図表12-07

職業有無別男性自殺者数の月別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



| (男性) | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 年間 |
|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|-----|-------|
| 有職者 | -9.2 | -9.0 | 5.4 | -12.0 | -1.8 | -6.0 | 0.4 | 7.0 | 9.8 | 10.4 | 9.2 | 2.2 | 6.4 |
| 無職者 | -7.6 | -9.2 | -1.0 | -7.8 | -9.6 | -2.8 | -3.8 | -3.2 | -4.2 | 2.0 | -0.6 | 8.8 | -39.0 |

注)自殺月で集計している。職業不詳、自殺月不詳は除外している。

- 2020年の男性の職業有無別自殺者数を月別で過去5年平均と比較すると、「有職者」は、上半期は減少傾向、下半期は増加傾向であったが、下半期の増加が上半期の減少を上回ったため、年間では6.4人の増となった。
- また、「無職者」は「10月」と「12月」のみ過去5年平均を上回り、年間では39.0人の減となった。

図表12-08

職業別男性自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

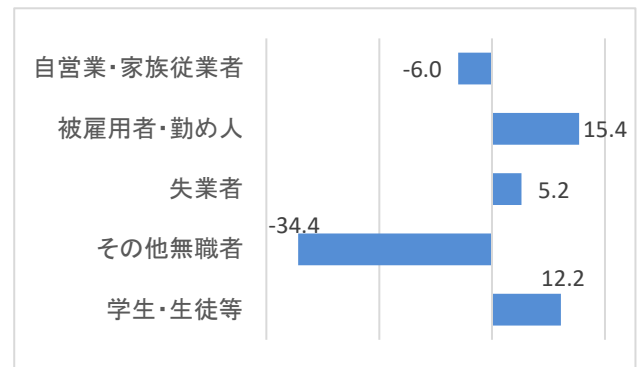
自殺者数(人)

図表12-08-1

| | | 過去5年平均 | 2020年 | 増減数 | 増減率 |
|-----|-----------|--------|-------|-------|------|
| 有職者 | 自営業・家族従業者 | 62.0 | 56 | -6.0 | -10% |
| | 被雇用者・勤め人 | 312.6 | 328 | 15.4 | 5% |
| 無職者 | 失業者 | 38.8 | 44 | 5.2 | 13% |
| | その他無職者 | 356.4 | 322 | -34.4 | -10% |
| | 学生・生徒等 | 34.8 | 47 | 12.2 | 35% |

注) 職業不詳は除外している。

図表12-08-2



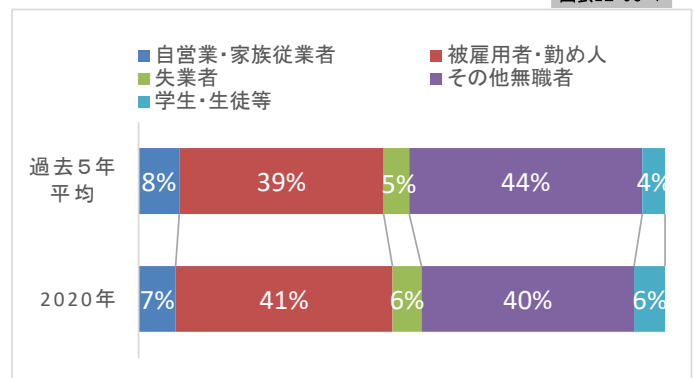
構成比(%)

図表12-08-3

| | | 過去5年平均 | 2020年 |
|-----|-----------|--------|-------|
| 有職者 | 自営業・家族従業者 | 8% | 7% |
| | 被雇用者・勤め人 | 39% | 41% |
| 無職者 | 失業者 | 5% | 6% |
| | その他無職者 | 44% | 40% |
| | 学生・生徒等 | 4% | 6% |

注) 職業不詳は除外している。

図表12-08-4



年齢階級別(人)

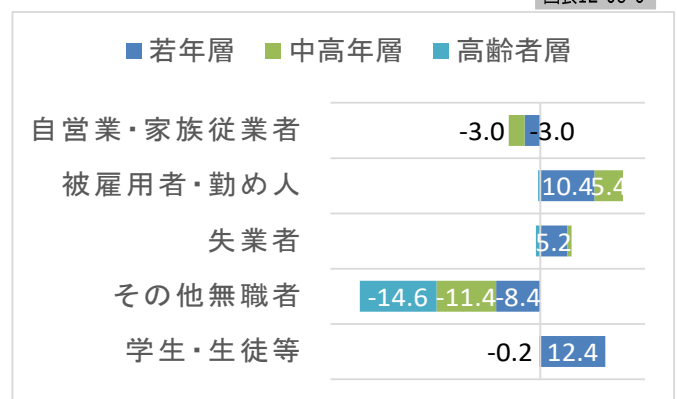
図表12-08-5

| | | 若年層 40歳未満 | 中高年層 40~64歳 | 高齢者層 65歳以上 |
|-----|-----------|--------------|----------------|---------------|
| 有職者 | 自営業・家族従業者 | -3.0 | -3.0 | 0.0 |
| | 被雇用者・勤め人 | 10.4 | 5.4 | -0.4 |
| 無職者 | 失業者 | 5.2 | 0.8 | -0.8 |
| | その他無職者 | -8.4 | -11.4 | -14.6 |
| | 学生・生徒等 | 12.4 | -0.2 | 0.0 |

注) 職業不詳、年齢不詳は除外している。

注) 「その他無職者」は、無職者のうち主婦、失業者を除くもので、利子・配当・家賃生活者、年金・雇用保険等生活者、浮浪者及びその他の無職者に分類されるものをまとめている。

図表12-08-6



- 男性の職業別自殺者数を構成比で過去5年平均と比較すると、「被雇用者・勤め人」と「学生・生徒等」がそれぞれ2ポイントずつ上昇した(図表12-08-3,図表12-08-4)。
- 自殺者数で過去5年平均と比較すると、「有職者」は、「被雇用者・勤め人」が15.4人、「無職者」は、「失業者」が5.2人とそれぞれ最も増加した。また、「学生・生徒等」は、12.2人増加した(図表12-08-1,図表12-08-2)。
- また、過去5年平均と比較して自殺者が増加した、「被雇用者・勤め人」、「学生・生徒等」、「失業者」について、年齢階級別にみると、いずれも「若年層」での増加が多くなっている(図表12-08-5,図表12-08-6)。

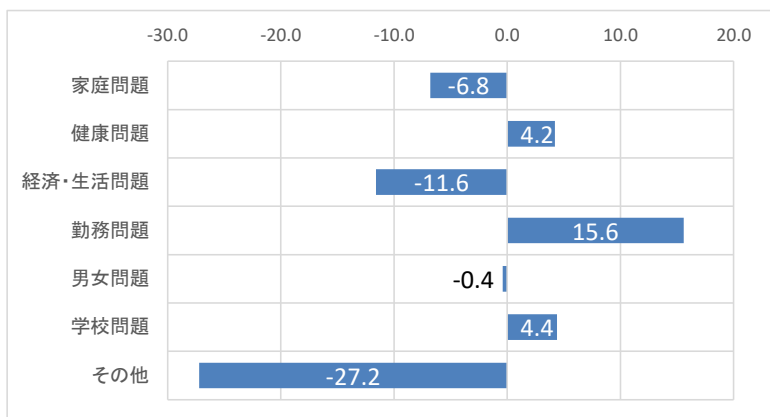
1 (2) 男性の概況

図表12-09

原因・動機別男性自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



| | 過去5年平均 | 2020年 | 増減 |
|---------|--------|-------|-------|
| 家庭問題 | 94.8 | 88 | -6.8 |
| 健康問題 | 253.8 | 258 | 4.2 |
| 経済・生活問題 | 160.6 | 149 | -11.6 |
| 勤務問題 | 86.4 | 102 | 15.6 |
| 男女問題 | 22.4 | 22 | -0.4 |
| 学校問題 | 13.6 | 18 | 4.4 |
| その他 | 58.2 | 31 | -27.2 |

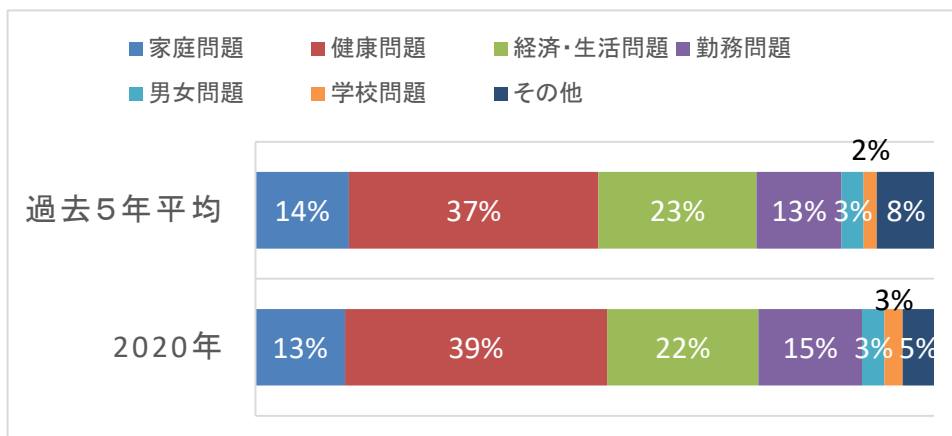
注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の男性自殺者の原因・動機別の状況について、過去5年平均と比較すると、「その他」を除くと、「勤務問題」が15.6人と最も増加し、「経済・生活問題」が11.6人と最も減少した。

図表12-10

原因・動機別男性自殺者数構成比の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



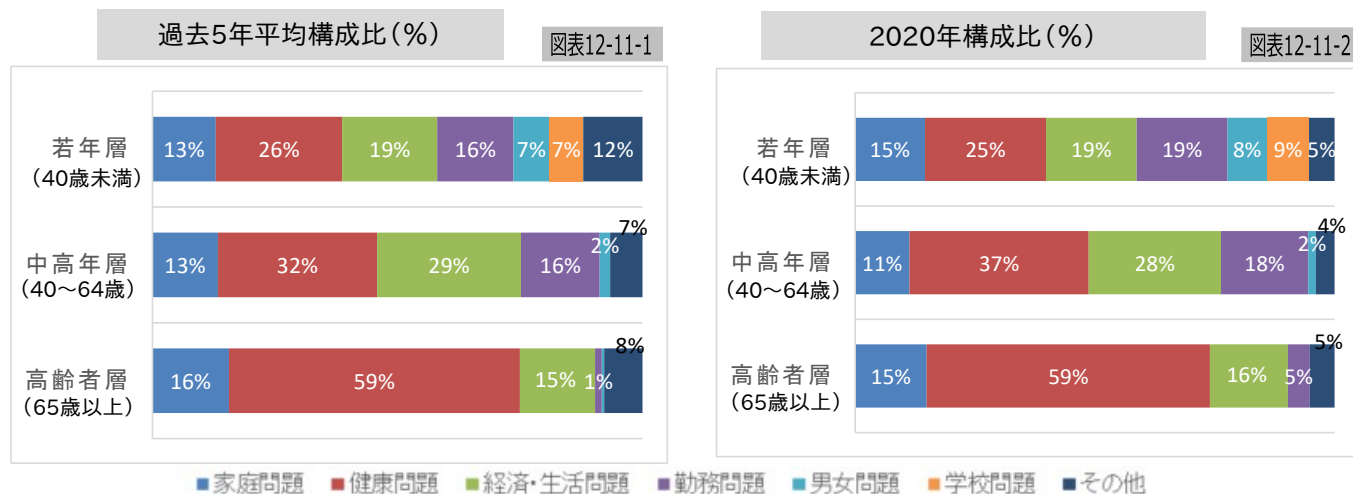
注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の男性自殺者の原因・動機別の構成比は、「健康問題」が39%と最も多く、次いで、「経済・生活問題」が22%、「勤務問題」が15%の順となっている。
- また、過去5年平均と比較すると、「健康問題」と「勤務問題」がそれぞれ2ポイントずつ上昇した。

図表12-11

年齢階級別、原因・動機別男性自殺者数の構成比比較(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注) 年齢不詳、原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 男性自殺者の原因・動機別の構成比を、年齢階級別に過去5年平均と比較すると、2020年は「若年層」では、「勤務問題」が3ポイントと最も上昇した(図表12-11-1,図表12-11-2)。
- 「中高年層」では、「健康問題」が5ポイントと最も上昇した(図表12-11-1,図表12-11-2)。
- 「高齢者層」では、「勤務問題」が4ポイントと最も上昇した(図表12-11-1,図表12-11-2)。

図表12-12

年齢階級別、原因・動機別男性自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

| | 若年層 (40歳未満) | | | 中高年層 (40~64歳) | | | 高齢者層 (65歳以上) | | |
|---------|-------------|-------|-------|---------------|-------|-------|--------------|-------|------|
| | 過去5年平均 | 2020年 | 増減 | 過去5年平均 | 2020年 | 増減 | 過去5年平均 | 2020年 | 増減 |
| 家庭問題 | 25.4 | 30 | 4.6 | 44.6 | 35 | -9.6 | 24.8 | 23 | -1.8 |
| 健康問題 | 50.8 | 52 | 1.2 | 108.4 | 115 | 6.6 | 94.4 | 91 | -3.4 |
| 経済・生活問題 | 38.2 | 39 | 0.8 | 98 | 85 | -13.0 | 24.4 | 25 | 0.6 |
| 勤務問題 | 30.6 | 39 | 8.4 | 53.6 | 56 | 2.4 | 2.2 | 7 | 4.8 |
| 男女問題 | 14.4 | 17 | 2.6 | 7.2 | 5 | -2.2 | 0.8 | 0 | -0.8 |
| 学校問題 | 13.6 | 18 | 4.4 | 0 | 0 | 0.0 | 0 | 0 | 0.0 |
| その他の問題 | 23.8 | 11 | -12.8 | 22 | 12 | -10.0 | 12.4 | 8 | -4.4 |

注) 年齢不詳、原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の男性自殺者について、年齢階級別、原因・動機別に、過去5年平均と比較すると、「若年層」では、最も増加したのは「勤務問題」で、次いで「家庭問題」、「学校問題」の順であった。
- 「中高年層」では、「健康問題」と「勤務問題」のみが増加した。
- 「高齢者層」では、「勤務問題」と「経済・生活問題」のみが増加した。

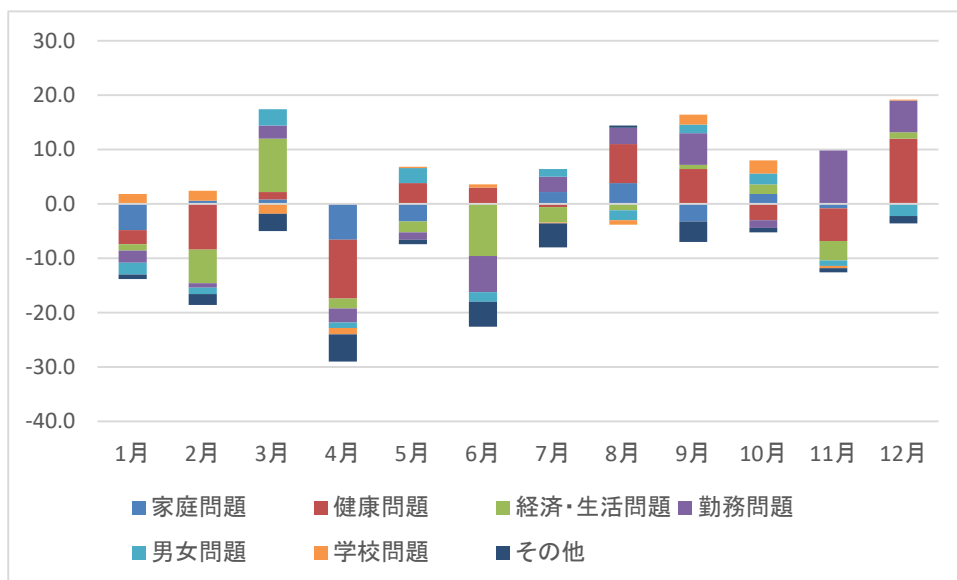
1 (2) 男性の概況

図表12-13

原因・動機別、月別男性自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)自殺月で集計している。

原因・動機不詳、自殺月不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の男性自殺者数を月別、原因・動機別で過去5年平均と比較すると、男性自殺者数が継続して増加に転じた「8月」以降は「健康問題」と「勤務問題」の増加が目立っている。
- 年間の合計で見ると、過去5年平均と比べ、「勤務問題」、「学校問題」、「健康問題」の順で増加した。

図表12-14

原因・動機別、年齢階級別男性自殺者数の期別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

| | 上半期 | | | 下半期 | | |
|---------------|--------|-------|-------|--------|-------|------|
| | 過去5年平均 | 2020年 | 増減 | 過去5年平均 | 2020年 | 増減 |
| 若年層 (40歳未満) | | | | | | |
| 家庭問題 | 13.6 | 16 | 2.4 | 12 | 13 | 1.0 |
| 健康問題 | 26 | 23 | -3.0 | 25 | 27 | 2.0 |
| 経済・生活問題 | 20.6 | 19 | -1.6 | 17.8 | 19 | 1.2 |
| 勤務問題 | 16.4 | 14 | -2.4 | 14.2 | 24 | 9.8 |
| 男女問題 | 7.2 | 8 | 0.8 | 7.2 | 9 | 1.8 |
| 学校問題 | 6.6 | 8 | 1.4 | 7 | 10 | 3.0 |
| その他の問題 | 13.6 | 4 | -9.6 | 10.2 | 7 | -3.2 |
| 合計 | 104 | 92 | -12.0 | 93.4 | 109 | 15.6 |
| 中高年層 (40～64歳) | | | | | | |
| 家庭問題 | 22 | 14 | -8.0 | 22.8 | 20 | -2.8 |
| 健康問題 | 56.4 | 55 | -1.4 | 52 | 60 | 8.0 |
| 経済・生活問題 | 53.4 | 40 | -13.4 | 44.6 | 43 | -1.6 |
| 勤務問題 | 27.4 | 16 | -11.4 | 26.2 | 40 | 13.8 |
| 男女問題 | 3.4 | 3 | -0.4 | 3.8 | 2 | -1.8 |
| その他の問題 | 10.6 | 4 | -6.6 | 11.4 | 8 | -3.4 |
| 合計 | 173.2 | 132 | -41.2 | 160.8 | 173 | 12.2 |
| 高齢者層 (65歳以上) | | | | | | |
| 家庭問題 | 16.6 | 9 | -7.6 | 8.2 | 14 | 5.8 |
| 健康問題 | 45 | 36 | -9.0 | 49.2 | 55 | 5.8 |
| 経済・生活問題 | 13 | 17 | 4.0 | 11.4 | 8 | -3.4 |
| 勤務問題 | 1.4 | 4 | 2.6 | 0.8 | 3 | 2.2 |
| 男女問題 | 0.8 | 0 | -0.8 | 0 | 0 | 0.0 |
| その他の問題 | 6.2 | 6 | -0.2 | 6.2 | 2 | -4.2 |
| 合計 | 83 | 72 | -11.0 | 75.8 | 82 | 6.2 |

注) 自殺月で集計している。年齢不詳、自殺月不詳、原因・動機不詳は除外している。
原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の男性自殺者について、期別・年齢階級別に自殺の原因・動機を過去5年平均と比較した。
- 「若年層」は、上半期は、ほぼ減少したが、主に「家庭問題」と「学校問題」でやや増加した。下半期はほぼ増加し、最も増加したものは「勤務問題」であった。
- 「中高年層」は、上半期はすべての項目で減少し、下半期は、「勤務問題」と「健康問題」のみが増加した。
- 「高齢者層」は、上半期は「経済・生活問題」と「勤務問題」のみが増加した。下半期は、「家庭問題」、「健康問題」、「勤務問題」が増加した。

1 (2) 男性の概況

図表12-15

職業有無、原因・動機別男性自殺者数の期別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

若年層(40歳未満) 男性

図表12-15-1

| | | 上半期 | 下半期 | 年間 |
|---------|---------|------|------|------|
| 有職者 | 家庭問題 | 0.0 | -1.4 | -1.4 |
| | 健康問題 | -3.0 | 1.0 | -2.0 |
| | 経済・生活問題 | 1.6 | 2.6 | 4.2 |
| | 勤務問題 | -1.6 | 7.6 | 6.0 |
| | 男女問題 | 1.0 | 0.4 | 1.4 |
| | 学校問題 | 0.0 | -0.2 | -0.2 |
| | その他の問題 | -3.8 | -1.4 | -5.2 |
| | 無職者 | 家庭問題 | 1.4 | 0.0 |
| 健康問題 | | 1.6 | -3.4 | -1.8 |
| 経済・生活問題 | | -1.4 | -1.8 | -3.2 |
| 勤務問題 | | -0.8 | 1.2 | 0.4 |
| 男女問題 | | -1.2 | -0.2 | -1.4 |
| 学校問題 | | 1.8 | -0.2 | 1.6 |
| その他の問題 | | -3.2 | -1.8 | -5.0 |

中高年層(40~64歳) 男性

図表12-15-2

| | | 上半期 | 下半期 | 年間 |
|---------|---------|------|------|-------|
| 有職者 | 家庭問題 | -5.4 | -1.4 | -6.8 |
| | 健康問題 | 1.4 | 9.6 | 11.0 |
| | 経済・生活問題 | -5.8 | -6.6 | -12.4 |
| | 勤務問題 | -9.6 | 12.2 | 2.6 |
| | 男女問題 | -1.2 | -1.2 | -2.4 |
| | 学校問題 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | その他の問題 | -4.4 | -1.2 | -5.6 |
| | 無職者 | 家庭問題 | -2.4 | -1.4 |
| 健康問題 | | -4.0 | -1.0 | -5.0 |
| 経済・生活問題 | | -7.2 | 5.8 | -1.4 |
| 勤務問題 | | -1.6 | 1.6 | 0.0 |
| 男女問題 | | 0.8 | -0.6 | 0.2 |
| 学校問題 | | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| その他の問題 | | -2.4 | -1.2 | -3.6 |

高齢者層(65歳以上) 男性

図表12-15-3

| | | 上半期 | 下半期 | 年間 |
|---------|---------|-------|------|-------|
| 有職者 | 家庭問題 | -2.2 | -0.8 | -3.0 |
| | 健康問題 | 3.6 | 4.2 | 7.8 |
| | 経済・生活問題 | 0.2 | -0.8 | -0.6 |
| | 勤務問題 | 3.0 | 1.4 | 4.4 |
| | 男女問題 | -0.4 | 0.0 | -0.4 |
| | 学校問題 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | その他の問題 | 1.0 | -1.0 | 0.0 |
| | 無職者 | 家庭問題 | -5.2 | 6.6 |
| 健康問題 | | -12.2 | 1.8 | -10.4 |
| 経済・生活問題 | | 4.2 | -2.4 | 1.8 |
| 勤務問題 | | -0.4 | 0.8 | 0.4 |
| 男女問題 | | -0.4 | 0.0 | -0.4 |
| 学校問題 | | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| その他の問題 | | -1.0 | -3.2 | -4.2 |

- 2020年の男性自殺者について、さらに、年齢階級区分別に職業有無別の原因・動機を過去5年平均と比較した。
- 「若年層」は、「有職者」で、特に下半期の「勤務問題」が増加した(図表12-15-1)。
- 「中高年層」は、「有職者」では、特に下半期の「勤務問題」と「健康問題」、「無職者」では、特に「経済・生活問題」が増加した(図表12-15-2)。
- 「高齢者層」については、「有職者」では、特に、年間を通じた「健康問題」と上半期の「勤務問題」が、「無職者」では、特に上半期の「経済・生活問題」と下半期の「家庭問題」が増加した(図表12-15-3)。

注)自殺月で集計している。

年齢不詳、職業不詳、自殺月不詳、原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

図表12-16

原因・動機(小分類)別男性自殺者数の比較(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

| 区分:有職者 男性 | | | | | 図表12-16-1 |
|-----------------|--------------------|-------|-------|--------|-----------|
| 2020年の構成比の上位を表示 | | 2020 | 2019 | 過去5年 | 大分類 |
| 順位 | 原因動機小分類 | n=337 | n=309 | n=1676 | |
| 1 | 病気の悩み・影響(うつ病) | 15.1% | 14.2% | 13.9% | 健康 |
| 2 | 仕事疲れ | 8.6% | 7.4% | 7.2% | 勤務 |
| 3 | 職場の人間関係 | 7.1% | 8.7% | 6.6% | 勤務 |
| 4 | 事業不振 | 6.8% | 5.8% | 5.6% | 経済生活 |
| 5 | 病気の悩み(身体の病気) | 6.5% | 4.5% | 5.8% | 健康 |
| 6 | 病気の悩み・影響(その他の精神疾患) | 5.3% | 2.6% | 2.6% | 健康 |
| 7 | 夫婦関係の不和 | 5.0% | 3.9% | 6.1% | 家庭 |
| 7 | 負債(その他) | 5.0% | 6.5% | 5.8% | 経済生活 |
| 7 | 職場環境の変化 | 5.0% | 4.2% | 4.1% | 勤務 |
| 10 | 仕事の失敗 | 4.2% | 4.2% | 3.9% | 勤務 |

| 区分:無職者 男性 | | | | | 図表12-16-2 |
|-----------------|--------------------|-------|-------|--------|-----------|
| 2020年の構成比の上位を表示 | | 2020 | 2019 | 過去5年 | 大分類 |
| 順位 | 原因動機小分類 | n=288 | n=271 | n=1584 | |
| 1 | 病気の悩み(身体の病気) | 20.1% | 21.0% | 20.4% | 健康 |
| 2 | 病気の悩み・影響(うつ病) | 14.6% | 17.7% | 16.9% | 健康 |
| 3 | 生活苦 | 8.0% | 6.3% | 6.6% | 経済生活 |
| 4 | 病気の悩み・影響(その他の精神疾患) | 5.9% | 4.1% | 4.1% | 健康 |
| 5 | 失業 | 4.9% | 4.1% | 5.9% | 経済生活 |
| 6 | 夫婦関係の不和 | 3.8% | 2.6% | 2.0% | 家庭 |
| 6 | 病気の悩み・影響(統合失調症) | 3.8% | 6.3% | 5.0% | 健康 |
| 6 | 就職失敗 | 3.8% | 1.5% | 2.6% | 経済生活 |
| 9 | 孤独感 | 3.5% | 1.8% | 2.0% | その他 |
| 10 | 負債(その他) | 3.1% | 3.7% | 3.2% | 経済生活 |

注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 男性の自殺者の原因・動機(小分類)を有職者・無職者別に過去5年平均と比較した。
- 「有職者」は、2020年は「病気の悩み・影響(うつ病)」が最も多く、次いで、「仕事疲れ」、「職場の人間関係」の順であり、これらの原因・動機は、いずれも過去5年平均と比較して、比率が上昇した(図表12-16-1)。
- 「無職者」は、2020年は「病気の悩み(身体の病気)」が最も多く、次いで、「病気の悩み・影響(うつ病)」、「生活苦」の順であり、これらの原因・動機のうち、「生活苦」のみが過去5年平均と比較して、比率が上昇した(図表12-16-2)。

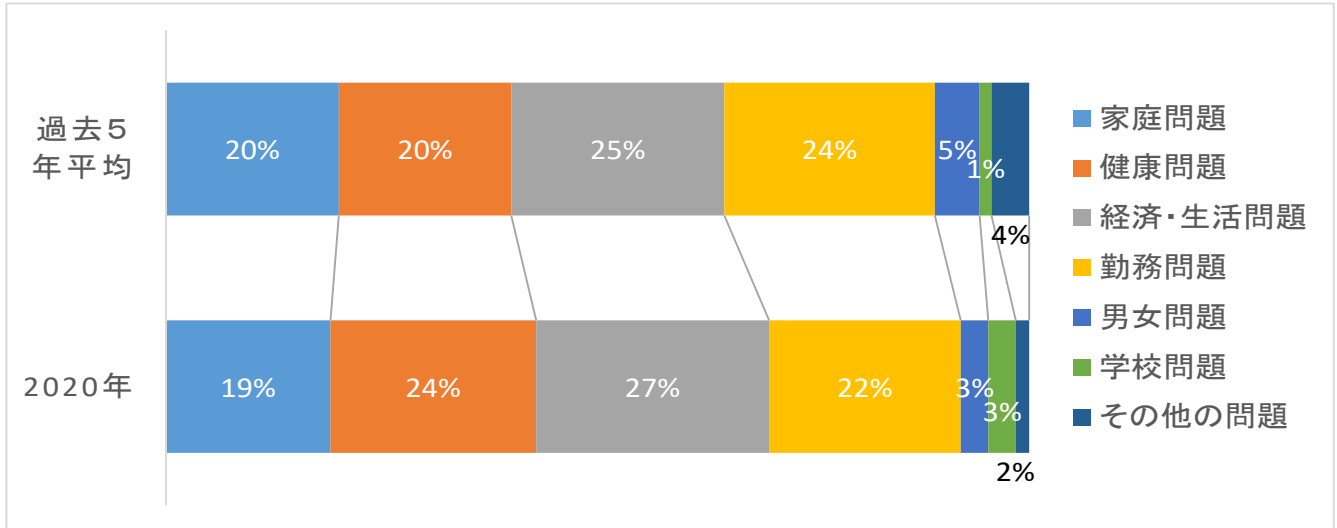
1 (2) 男性の概況

図表12-17

うつ病と併せて計上された原因・動機の比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位: %

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- うつ病は、「経済・生活問題」や「家庭問題」、「勤務問題」等、他の問題が深刻化する中で、発症することも多いと考えられることから、男性自殺者の原因・動機の上位にある「病気の悩み・影響(うつ病)」と併せて計上された原因・動機について調べた。
- 構成比で見ると、2020年は、「病気の悩み・影響(うつ病)」と併せて計上された要因は、「経済・生活問題」が最も多く、次いで、「健康問題」、「勤務問題」の順に多かった。
- 過去5年平均と比較すると、「健康問題」が4ポイントと最も上昇し、次いで、「経済・生活問題」、「学校問題」がそれぞれ2ポイント上昇した。

図表12-18

原因・動機(小分類)別男性自殺者数の期別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

| | 家庭問題 | | |
|-------------|------|------|------|
| | 上半期 | 下半期 | 年間 |
| 親子関係の不和 | -1.4 | 3.0 | 1.6 |
| 夫婦関係の不和 | -1.4 | 1.2 | -0.2 |
| その他家族関係の不和 | 0.2 | -2.0 | -1.8 |
| 家族の死亡 | -3.0 | 2.0 | -1.0 |
| 家族の将来悲観 | -3.6 | 0.4 | -3.2 |
| 家族からのしつけ・叱責 | 0.4 | 1.2 | 1.6 |
| 子育ての悩み | -0.4 | -0.6 | -1.0 |
| 被虐待 | 0.0 | -0.2 | -0.2 |
| 介護・看病疲れ | -3.2 | -1.0 | -4.2 |
| 家庭問題その他 | -0.8 | 0.0 | -0.8 |

- 2020年の男性の自殺者の原因・動機(小分類)別について、過去5年平均と比較した。
- 「家庭問題」は、下半期の「親子関係の不和」が最も増加し、次いで、「家族の死亡」が多かった。

| | 健康問題 | | |
|--------------------|------|------|------|
| | 上半期 | 下半期 | 年間 |
| 病気の悩み(身体の病気) | -2.4 | -1.4 | -3.8 |
| 病気の悩み・影響(うつ病) | 11.0 | 4.6 | -6.4 |
| 病気の悩み・影響(統合失調症) | -3.6 | -1.0 | -4.6 |
| 病気の悩み・影響(アルコール依存症) | 0.4 | 2.0 | 2.4 |
| 病気の悩み・影響(薬物乱用) | -0.6 | -0.2 | -0.8 |
| 病気の悩み・影響(その他の精神疾患) | 5.2 | 9.2 | 14.4 |
| 身体障害の悩み | -2.0 | 1.2 | -0.8 |
| 健康問題その他 | 0.4 | 1.4 | 1.8 |

- 「健康問題」は、下半期の「病気の悩み・影響(その他の精神疾患)」が最も増加し、次いで、上半期の「病気の悩み・影響(その他の精神疾患)」、下半期の「病気の悩み・影響(うつ病)」の順となった。

| | 経済・生活問題 | | |
|------------|---------|------|------|
| | 上半期 | 下半期 | 年間 |
| 倒産 | -0.8 | -0.6 | -1.4 |
| 事業不振 | 0.8 | 2.8 | 3.6 |
| 失業 | -5.2 | 0.0 | -5.2 |
| 就職失敗 | 3.2 | -0.6 | 2.6 |
| 生活苦 | -4.2 | -2.2 | -6.4 |
| 負債(多重債務) | 1.0 | -3.0 | -2.0 |
| 負債(連帯保証債務) | -0.2 | -1.0 | -1.2 |
| 負債(その他) | -5.6 | 0.6 | -5.0 |
| 借金の取り立て苦 | 2.0 | 1.2 | 3.2 |
| 自殺による保険金支給 | -1.0 | 0.2 | -0.8 |
| 経済生活問題その他 | -1.0 | -1.2 | -2.2 |

- 「経済・生活問題」は、上半期の「就職失敗」が最も増加し、次いで、下半期の「事業不振」が増加した。

注)自殺月で集計している。原因・動機不詳、自殺月不詳は除外している。

原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

1 (2) 男性の概況

図表12-19

原因・動機(小分類)別男性自殺者数の期別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

| | 勤務問題 | | |
|---------|------|-----|-----|
| | 上半期 | 下半期 | 年間 |
| 仕事の失敗 | -2.0 | 2.2 | 0.2 |
| 職場の人間関係 | -3.2 | 6.8 | 3.6 |
| 職場環境の変化 | -1.8 | 5.6 | 3.8 |
| 仕事疲れ | -1.8 | 5.6 | 3.8 |
| 勤務問題その他 | -2.4 | 5.6 | 3.2 |

- 「勤務問題」は、すべての項目で、上半期は下回り、下半期は上回った。下半期のうち、最も大きく上回ったのは、「職場の人間関係」で、次いで、「職場環境の変化」・「仕事疲れ」・「勤務問題その他」の順であった。

| | 男女問題 | | |
|-------------|------|------|------|
| | 上半期 | 下半期 | 年間 |
| 結婚をめぐる悩み | 0.2 | -1.0 | -0.8 |
| 失恋 | -0.2 | 3.8 | 3.6 |
| 不倫の悩み | -0.2 | 1.4 | 1.2 |
| その他交際をめぐる悩み | 1.2 | -3.6 | -2.4 |
| 男女問題その他 | -1.4 | -0.6 | -2.0 |

- 「男女問題」は、下半期の「失恋」が最も増加した。

| | 学校問題 | | |
|-------------|------|------|------|
| | 上半期 | 下半期 | 年間 |
| 入試に関する悩み | 0.8 | -0.8 | 0.0 |
| その他進路に関する悩み | 2.8 | 3.8 | 6.6 |
| 学業不振 | -1.0 | -0.2 | -1.2 |
| 教師との人間関係 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| いじめ | -0.2 | 0.0 | -0.2 |
| その他学友との不和 | -0.8 | 0.8 | 0.0 |
| 学校問題その他 | -0.2 | -0.6 | -0.8 |

- 「学校問題」は、上半期、下半期ともに、「その他進路に関する悩み」が最も増加した。

| | その他の問題 | | |
|----------|--------|-------|-------|
| | 上半期 | 下半期 | 年間 |
| 犯罪発覚等 | -1.8 | 1.2 | -0.6 |
| 犯罪被害 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 後追い | -0.6 | -0.8 | -1.4 |
| 孤独感 | 4.0 | 1.0 | 5.0 |
| 近隣関係 | 0.8 | -0.4 | 0.4 |
| その他問題その他 | -18.8 | -11.8 | -30.6 |

- 「その他の問題」は、上半期の「孤独感」が最も増加した。

注)自殺月で集計している。原因・動機不詳、自殺月不詳は除外している。

原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

男性の概況まとめ

- 男性の自殺者数は、2007年以降、2009年が最多で1,309人、2019年が最少で732人であり、この間、577人と、大きく減少したが、2020年は前年比79人増の811人と増加した。
- 年齢階級別では、「20歳代」が過去5年平均を大きく上回ったことが特徴的であった。特に、「20～24歳」の増加が目立った。2020年の「20歳代男性」の自殺者数を職業別で見ると、「被雇用者・勤め人」が最も多く、次いで、「学生・生徒等」と「その他無職者」の順が多かった。また、原因・動機別では、「勤務問題」が最も多く、次いで、「健康問題」、「経済・生活問題」の順となった。(※付録参照)
- 職業別では、過去5年平均と比較して、「有職者」は「被雇用者・勤め人」が、「無職者」は「失業者」が増加し、「学生・生徒等」も増加した。また、「被雇用者・勤め人」の中では、「専門・技術職」が最も増加した。
- 原因・動機別の構成比をみると、過去5年平均と比較して、「健康問題」と「勤務問題」が最も増加した。「健康問題」の中で、最も多い「病気の悩み・影響(うつ病)」と併せて計上された原因・動機は、2020年では「経済・生活問題」が最も多く、次いで、「健康問題」、「勤務問題」の順に多かった。また、このうち、過去5年平均と比較して、最も増加した原因・動機は「健康問題」であった。
- 月別自殺者数では、主に「8月」以降で過去5年平均を上回り、特に、「10月」の増加が大きかった。「8月」以降の増加は、主に「若年層」と「中高年層」の増加の影響が大きく、また、職業の有無別自殺者数を過去5年平均と期別で比較すると、下半期では、特に「有職者」の増加が目立った。
- また、「若年層」と「中高年層」の有職者における下半期の原因・動機をみると、過去5年平均と比較して「勤務問題」が最も増加した。また、「中高年層」では、「健康問題」も増加した。